

Council of Road Construction Worker's Unions(C.R.U)

道路建設産業労働組合協議会 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 (日本舗道労働組合内) 電話03 (3562) 5857 URL:http://www1.ocn.ne.jp/cru

第17回 定期大会報告

2002年度の取り組み



あいさつする白井議長

7月29日に東京都荒川区のホテルラングウッドにおいて第17回定期大会が開催された。当日は役員、代議員80名が参集した。

白井議長より「道路建設事業に対する社会全般の目が一段と厳しくなっている。組合員の減少、特に若年層の

中途退職による衰退を防ぐため、『道路建設産業の魅力化への取組』が大事」と挨拶があり、大会が始まった。まず、2001年度の活動と決算の報告、一部規約改正が審議され満場一致で承認された。引き続き2002年度の運動方針案、予算案が審議され、満場一致で承認された。

役員改選では、新たに小山郁文副議長(大成ロテック社組)、栗田 明副議長(東亜道路労組)、西 聖二事務局長(前田道路労組)、北笠忠広中央執行委員(全大有労組)、榎田信司中央執行委員(フジタ道路職組)、青野丈児中央執行委員(不動建設労組)、高橋忠史会計監事(大成ロテック社組)の7名を加えた12名が承認され新執行部が発足した。

新執行部を代表して白井新議長が力強い挨拶を行い、道建労協は年度に向け決意を新たにし、力強い一歩を踏み出した。

なお、今大会をもって副議長の工川 靖氏(在任期間5年)、佐藤宗吾氏(同2年)、事務局長の長野 滋氏(同4年)、中央執行委員の竹山周作氏(同1年)、曾根崎義治氏(同6年)、岩田孝氏(同3年)、伊藤園美氏(同1年)、会計監事の藤田恵子氏(同3年)が退任された。大変お疲れさまでした。



道建労協第17回定期大会

雇用を守るために

2002年度のはじまりにあたり一言ご挨拶申し上げます。

今年度も我々建設産業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況が予想されています。道路建設産業においても、道路関係4公団民営化問題や高速道路建設見直し等、道路建設に対する目が一段と厳しくなっています。

デフレの進行、不良債権処理問題、そして経済のグローバル化による産業の空洞化が、雇用環境をますます悪化させています。

このような状況を踏まえ2002年度はどのような活動をしていくのかを、簡単にご紹介させていただきます。

一つ目は道建労協の本来の役目である「労働条件の維持向上のための、迅速な情報収集とその共有化」です。

建設産業の急激な環境の変化により、賃金・一時金等の年間収入を含む労働条件が時と共に様変わりしてきました。「雇用」と「労働条件」のバランスのとれた維持を図るために、企業の動向等の情報を逸早く収集し、各単組へフィードバックし情報を共有することで、単組の活動を支援していきます。

二つ目は「道路建設産業の魅力化への取り組み」です。

若年者の就業感の変化もあり中途退職が増えています。また、就職難にも関わらず、特に事務系、機械系の採用に対して応募が少ない等、道路建設産業に魅力が無くなってきていることを表す端的な例だと思います。

道路を建設する魅力、竣工の達成感は昔も今も変わりはありませんが、予算的にも、工期的にも、そして精神的にも余裕が無いのが実状です。激変する道路建設産業において求められているものは、若年者の中途退職を防ぐことによって、技術を伝承させ、更なる研鑽によって組織を活性化させることだと考えます。そのひとつの切り口である、時短と土曜休日取得を推進しなければ、この業界から優秀な人材は逃げていってしまいます。道建労協は、従来からの6月11月の第2第4土曜閉所運動の他に、今年度も各県のアスファルト合材協会に対し、年間を通しての第2第4土曜のプラント休業を働きかけていきますので、道建労協の活動にご協力をお願いします。

最後に建設産業の現状は厳しく企業の生き残りをかける努力で精一杯ではありますが、労働組合活動は、我々にとり情報源でもあり、また人を結びつけるという大きな機能を有するものです。今後も更なるご支援、ご協力をお願い致します。

(議長 白井好雄)

フリーウェイ

郊外に住む友人と久しぶりに酒を酌み交わした。酔った友人曰く。珍しく日没前に帰宅するとカミさんが「明日は仲秋の名月だからその辺でスキを採って来て」と言うので、家の周辺を歩きまわると空き地にはペン草もない。生えているのは背の高い外来種の草ばかり。仕方なく手ぶらで戻ると「何処を見て来たの」ときつく怒られた。

お前の業界が空き地も道も手当たり次第に舗装するからだ。同じ方向ばかり見て仕事をするな。文化や芸術や福祉も考えろ！宰相は「敵はあまたありとも」見果てぬ夢を追うラ・マンチャの男に目頭を熱くしたではないか。野菜にケチャップやオリブオイルをぶつけてイタリアンか？グローバル化がなんだ。日本の味は、酸味・苦み・甘み・辛み・塩味・滋味だよ！食べ物に限らず何んでも粗末に扱ってはいかんよ！と平成の枯れスキは豪語する。

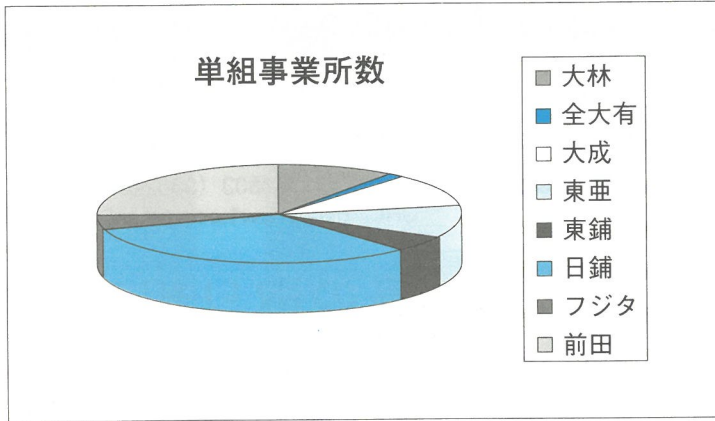
その真夜中、グラスを片手に衝動でビゼーのカルメンを聞いている……と「近所迷惑よ！」とカミさんの声。

断って置くがこの愚痴はある同僚が話していたことである。悪しからず……

(日本舗道労働組合 山崎)

土曜閉所(2002.6)アンケート結果

「まあいいか！土曜日出れば」は イエローカード



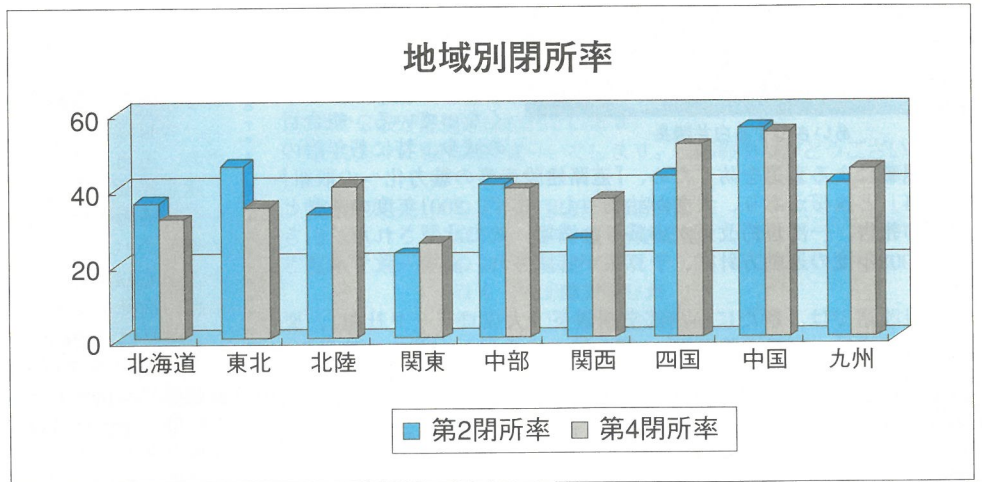
道建労協では毎年6月と11月に「土曜閉所運動」を展開しています。2002年6月も上記のスローガンを掲げ、第2土曜日と第4土曜日の事業所の閉所運動を行いました。その結果を集約するために加盟単組の各事業所にアンケートを行い下記のような結果となりました。

単組数は三井道路労組と不動建設労組を除く8単組、事業所数は全体で635の事業所から回答を頂きました。前回(2001.11)のアンケートよりは多くの回答を頂いていますが、例年よりも約3割程度回答数が少なくな

っています。事業所の統廃合等の理由もあるでしょうが、あまりにも極端に減っている点は気になるところです。

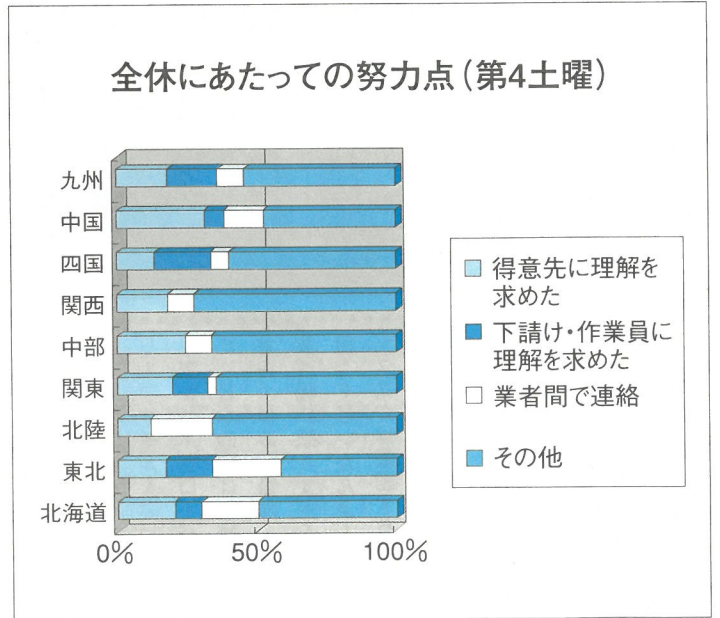
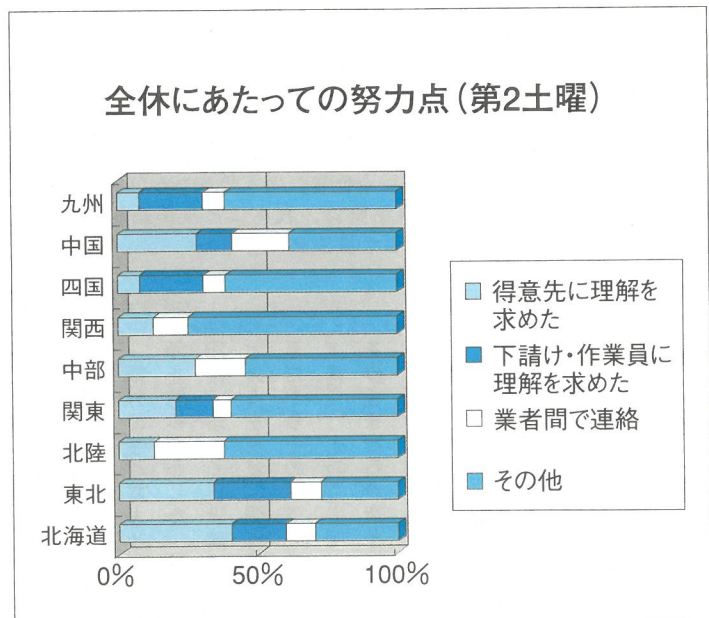
地域別に第2土曜日、第4土曜日それぞれの事業所の閉所率を示したのが下図です。毎回の傾向ですが、中国と

四国の閉所率が目立ちます。中国は第2土曜日で56%、第4土曜日で55%と高く、次いで四国が続いています。今回は九州、中部、東北に若干の改善が見られ、全体では第2土曜日が36.5%、第4土曜日が37.6%となりました。



土曜閉所にあたって努力した点は何かという設問に対する回答が下表です。

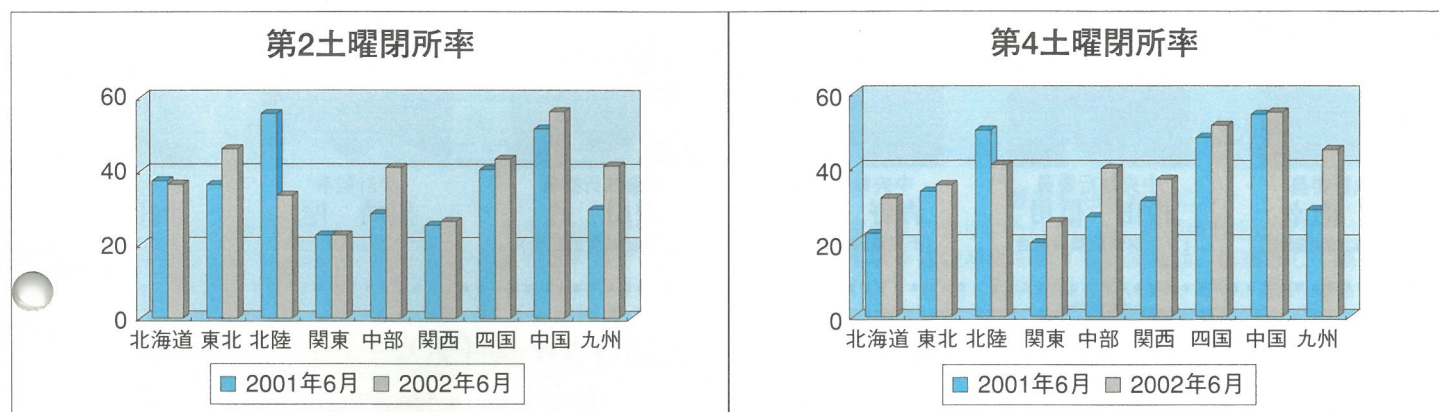
「その他」を除けば全体的には「得意先に理解を求めた」が一番多いが、閉所率の高い地域では中部を除き、「下請け・作業員に理解を求めた」割合が高いように思えます。



閉所率向上するも、土休所得が減少

昨年の6月のアンケート結果と比較したのが上図です。第2土曜日は北海道と北陸を除く全地域で改善され、閉所率は2001年6月の33.8%から36.5%に改善されました。第4土曜日においても北陸を除く全地域で閉所率が高くなり、32.4%から37.6%と大幅に改善されました。

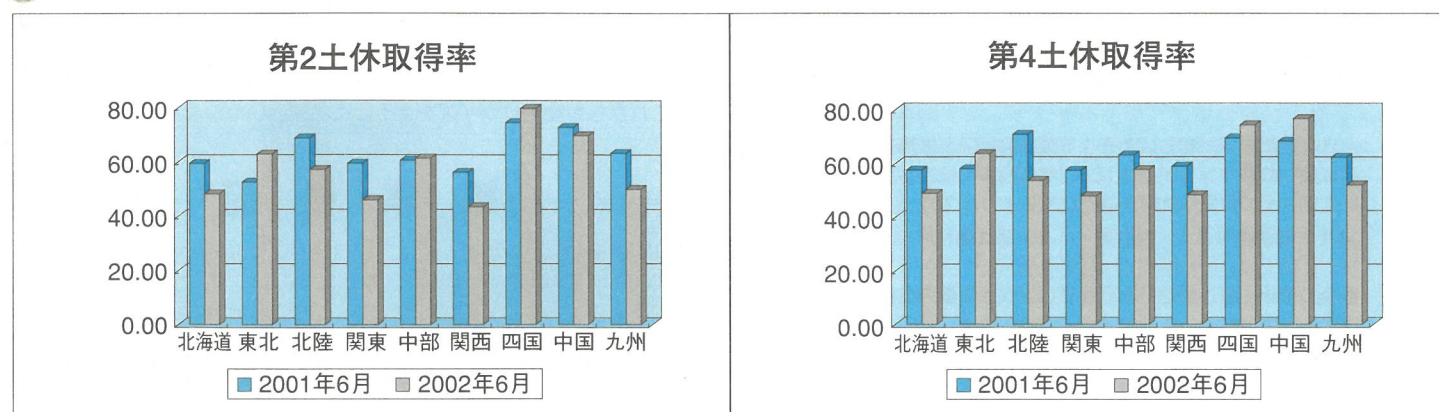
ところが、地域別に実際に休んだ人の割合（休んだ人数÷事業所の人数×100）を示したのが下図です。



第2土曜日は東北、中国を除き全地域での土休取得率が下がり、全体では2001年6月の61.2%から54.1%と悪化しています。第4土曜日についても東北、中国、四国で改善がみられたものの、全体では全体では2001年6月の61.3%から55.0%と悪化しています。

事業所の閉所率が上がっているにもかかわらず、土曜日に休日を取得している人が減っているという矛盾した結果となりました。その原因については現在のアンケート項目からは分析は不可能ですが、2極化が進んでいるのでしょうか？これまで事業所を閉所とまではいかないが、それなりに土曜休日を取得していました。その人数が減少しているのでしょうか？閉所できる事業所は全員が休み、閉所できない事業所はほとんどの人が出勤しているという傾向になってきたのでしょうか？いずれにしても土曜閉所運動の趣旨をもう一度確認し、道建労協全体での取り組みを再検討しなければならない段階になってきたと思われまます。道建労協では地方の合材協会に協力を要請しています。その効果が早く確認できることに期待したいものです。

前副議長 工川 靖（東亜道路労働組合）



11月は土曜閉所運動です

道建労協では「第2、第4土曜日の事業所全休運動」を'92年から実施しています。今年度も建設産労懇と共同でポスターを作成し土曜閉所運動として展開します。私達の心と体の健康保持のため、また所定外労働時間の削減に向けて運動を実施しましょう。特に今年は11月23日が勤労感謝の日ということもあり統一閉所日と定めています。尚、今年のスローガンは「休まず走れば事故のもと。閉所は心のサービスエリア」です。

*各単組の皆さん、アンケートへのご協力の程、宜しくお願いします。

新年度役員紹介

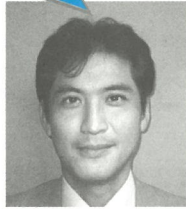
7月29日開催の第17回定期大会で下記の方々が新役員となりました。



議長
白井 好雄
(日本舗道労働組合)



副議長
黒沢 武典
(大林道路職員組合)



副議長
小山 郁文
(大成ロテック社員組合)



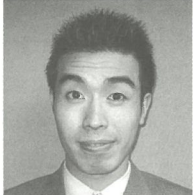
副議長
栗田 明
(東亜道路労働組合)



事務局長
西 聖二
(前田道路労働組合)



中央執行委員
北壁 忠広
(全大有労働組合)



中央執行委員
小林 由幸
(東京舗装工業社員労働組合)



中央執行委員
榎田 信司
(フジタ道路職員組合)



中央執行委員
青野 丈児
(不動建設労働組合)



中央執行委員
澄川 武
(三井道路労働組合)



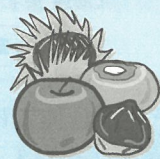
会計監事
須崎 厚
(大林道路職員組合)



会計監事
高橋 忠史
(大成ロテック社員組合)

物知りクイズ

秋……連想するものは？やっぱり食欲の秋！！
秋の味覚についてちょっと調べてみましょう



- Q1** 秋の味覚のトップバッターは柿。「柿が赤くなれば医者が青くなる」と言われるほどに栄養価の高いものです。柿1個にはみかん何個分のビタミンCが含まれているのでしょうか？
(1. みかん1個分 2. みかん2個分 3. みかん5個分)
- Q2** みずみずしい果肉をたわわに実らせる梨。あの有名な二十世紀梨は明治21年に発見されたそうです。その発見された場所はどこでしょうか？
(1. 松戸市(千葉県) 2. 鳥取市 3. 世羅町(広島県))
- Q3** 秋の味覚でワインを一杯。ワインとくればぶどうです。太平洋戦争中、ぶどう酒からできる酒石酸加理ソーダ(酒石)が軍用になるとしてさかんに生産され、「ぶどうは兵器だ」とのポスターも貼られました。酒石はどのように使われたのでしょうか？
(1. 火薬の素材 2. 非常食 3. 水中探知機の素材)
- Q4** たきびだたきびだおちばたき♪ 焚き火といえば焼き芋。焼き芋に使われるサツマイモは1597年に日本へ伝来したとされています。その伝来した場所はどこでしょうか？
(1. 種子島 2. 宮古島 3. 屋久島)
- Q5** 最後の締めにも栗ご飯などいかがでしょうか？栗の品種の中で実在するのはどれでしょうか？
(1. 利造 2. 利平 3. 利和)

物知りクイズ「カルト夏休み編」当選者発表

前回の物知りクイズ(第57号PAVE)の当選者が決定いたしました。今回も少数激戦?でした。Q2の皮膚ガンとなる有害な紫外線については2つの説がありどちらも正解といたしました。(紫外線はA、B、Cの順でC波が最強といわれています)
下記の方々に粗品をお送りいたします。ご応募ありがとうございました。

前回の答え	Q1	①山形県山形市
	Q2	②B波 or ③C波
	Q3	②銅
	Q4	③南アフリカ
	Q5	①17メートル以上
当選者	西本千登勢	(大林道路職員組合)
	元宗 久美	(全大有労働組合)
	松浦 泰明	(全大有労働組合)
	小林 美恵	(東亜道路労働組合)
	浅野 雄二	(東亜道路労働組合)
	鱒淵 誠	(東亜道路労働組合)
	近藤 美佳	(日本舗道労働組合)
	杉山 佳子	(日本舗道労働組合)
		(敬称省略)

これからも物知りクイズをよろしくお願いたします。

編集後記

道建労協の第17期、第1号のPAVE発行です。
私たちを取り巻く環境は、社会・経済ともに明るい兆しが見えず、私たちに深刻な影を落としています。そういった環境は、否が応でも私たちに様々な問題(例えば年金や健康保険の将来、失業の増加など)を提起してきます。そして私たちは、その対応に追われてしまい近い将来のことすら見失いがちになっています。言い古されたことばではあるけれど、働く仲間の結集である労働組合が、せめて明るさの源になるための活動をする、その方向性をしっかりと議論し将来への道筋をつけることなどが必要であると思います。構成組合員の皆様のご意見やご希望を、道建労協執行委員に是非申し付けて下さい。

今期もよろしくお願いたします。

(不動建設労働組合道路部会 青野丈児)

〈応募方法〉下記を明記してお送りください。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募をお待ちしております。

- 回答
- 賞品送り先住所・氏名および所属単組名
- 締め切り 11/30
- 今月の紙面で良かった点、気づいた点がありましたらご意見も是非お寄せください。
- 宛先 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 日本舗道労働組合内 道路建設産業労働組合協議会『PAVE』宛 FAX 03-3535-4810
- ※発表は次号(1月発行予定) URL <http://www.1ocn.ne.jp/cru>